



# こうべ森の学校だより

No.102

2022年3・4・5月号

発行人:こうべ森の学校 編集委員会

発行所:神戸市北区山田町下谷上上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel:078-321-5937 Fax:078-371-1087

2022年4月1日

## 2022年度活動方針

代表 佐藤 憲一

2021年度も引き続きコロナ感染症に振り回され、計画した活動も不十分なまま終わってしまいました。一方で、3密を避けて自然の中で活動できるためか、新たに入会される方が増えました。新しい会員も増えています。活動での事故発生は世の中の信頼を失うこととなります。事故はなくて当たり前。前年度の標語「めんどくさいが事故のもと！」は踏襲します。

### (1) 安全第一「めんどくさいが事故のもと」

安全を支えるもの、それは確かな知識と確かな技術の実践です。ここ2年間コロナ禍で、新入会者に対する安全講習は何とか実施したものの、スタッフに対する安全マニュアルをベースにした座学・実地研修はできませんでした。今年度は、コロナの動向を見極めながら、安全講習を再開、知識と技術を確かなものにしていきましょう。例えば選木：少し離れたところから伐倒木の重心方向を見ることなど・・・

### (2) 活動を楽しみ、心地よい森づくりを進めましょう。

新しい会員の方々が、遊び心を持ち工夫しながら森の手入れを楽しんでいます。人はそれぞれ、心のゆとりをもってゆったりと活動を楽しみましょう。(但し、くれぐれもご安全に！)

一方で、腰を落とす姿勢が負担なのか、「伐倒・ササ刈りは地際で、集積はコンパクトに」の基本が疎かになっているようにも感じます。幸い、電動バリカン導入、刈払い機についても平日使用は許可されています。

安全には十分配慮しつつ、電動機材の力を借りて、見た目にも歩いても心地よい森づくりを進めましょう。

### (3) 会員増強は喫緊の課題です。

来年秋に創立20周年を迎えます。会員・スタッフの高齢化が進み、会員増強は最重要課題です。

森学HPの充実、六甲山大学HP活用、ログ開放を利用した掲示板による呼びかけやチラシによる平日活動参加へのお誘いなど地道な取り組みを行っていきます。

ここ数年間、ハイキング道・背山沿いの手入れを進めました。公園来訪者にアピールするためでした。

森の保全・木工・苗圃の協力で、修法ヶ原池周辺と背山山麓を美しく整備することが進みました。

創立20年に向けて私たちの活動PRをいろいろな形で進め新しい参加者を増やしていきましょう。

みなさんのお知り合いの方に、ぜひ森学体験を勧めてください。

### (4) 森学創立20年の記念行事等の検討を進めていきます。

来年秋に創立20年になります。整備事務所と相談し、行事などの検討を進めていきます。

(コロナ対応)

コロナ感染の収束を期待しますが、当面は自己防衛。正しいマスク着用、ソーシャルディスタンス、手指消毒、黙食、室内の定期的換気などにご協力ください。お互い注意しあってご安全に活動を楽しみましょう！

## 2月例会

2月20日(日)  
寒い中、37名が集合



体操にも気合が入っています!!

新規加入者2人も、丁寧な作業





## 3月例会

3月12日(土)、春を先取りしたかのような晴天の下、28人が集合しました



今月も新規加入者  
一人が加わりました

真ん中あたりに、  
いますよ!!



共同で、集積作業をしています

午後、自然観察組は、洞川梅林を巡り、目の保養を!!





## 「森の手入れに掛かる前の確認・共有事項」

### 3月平日活動にて、危険な事案が発生しました !!

胸高直径25cm～のソゴを周りに掛声もせず、伐倒しました。近くには、作業仲間が活動中でしたので、一歩間違えば人災にも繋がっていた状況です。

この機会に、改めて基本事項の確認と共有をお願いします。

以降、平日活動のミーティングでは、繰返し、以下の内容をお伝えしています。

#### 朝礼読み上げ確認事項

- 森の作業は、3人以上で行う
- 途中早退・合流は、リーダーに通知する
- 樹高の2倍以内に他の人がいないことを確認する
- ビール瓶(大瓶)以上の太さの木を切るときは、受け口・追い口をつくる
- 月例会では、胸高直径 15 cm以上の木を切ってはならない
- 平日活動で、胸高直径 15 cm以上の木を切るとき
  - ・ 必要装備(ロープ・クサビ・プラロック・フェリングレバー)を携行する
  - ・ リーダーの許可を得る
  - ・ 二人以上で作業する
- 切った木が倒れる前に「倒れます」と、大声で、周りに注意喚起する
- 伐倒木の処理は、伐倒者本人が行う
  - ・ 二人以上で作業するときには、先に幹を切り離してから行う
- 作業当日内で、集積処理まで終える範囲で、伐倒する

### 3月29日の様子です

年度末を迎えて、ノコギリ・剪定ハサミ等装備品の棚卸し・点検を行いました。幸いにも、15名の参加者のおかげで、早く作業を終えることができました。お疲れ様でした。

苗づくり班の装備品点検後、奥の椎茸ホダ木置き場を覗くと、なな一んと椎茸が鈴生りではありませんか!? 途中の山中にも、天然物が負けじと、20cm越えの傘を広げていましたよ!!! バケツから溢れるほどの収穫となりました。昼間の気温が、20度を超えてくると、生育が進むようですね!! 春の訪れを実感した一日でした。



参加者全員で道具の点検です



オッ!! アオキが黄色の実を付け



肉厚シイタケ  に  
誰かの手が伸びているでは !?

天然物も、美形を付けているでは !?

### 「みんなでつくろう アナベルの森」に参加して

隈元 和美

去る4月10日、神戸市立森林植物園主催のイベントが行われました。アナベルは、ご存じの方も多いかと思いますが、アジサイの一種で、初夏に真っ白なお椀を伏せたような、愛らしいガクの集合体である花を咲かせます。

当日は真夏日に近い晴天の下、今年で三回目となる募集に、午前15組・午後15組の定員いっぱいのお誘いがあり、好評の幕開けとなりました。植物園スタッフ3名、森学10名、植物園ボランティア、アジサイ班8名の助手たちがコロナに配慮しつつ、楽しい一日を過ごしました。アナベルの森がますます広がり、毎年開花の時期に会いに行くのが楽しみです。



名残の桜の下、挿し穂の準備中

参加者は、興味深く挿し穂を持ち







こちらの参加者も、丁寧に挿し穂を扱っています

ななな一んと!? できた挿し穂



約2000本以上



## 4月例会



17日(日)、晴天の再度公園に、38名が集合

なんと7名(高校生6名)の新規加入者が中ほどにいます

新規加入7名が  
作業に全集中中!!

作業後の場所を振り返り、  
「なかなか綺麗」と  
自画自賛 😊





## コバノミツバツツジが役立っています

苗作り班リーダー 東郷 賢治

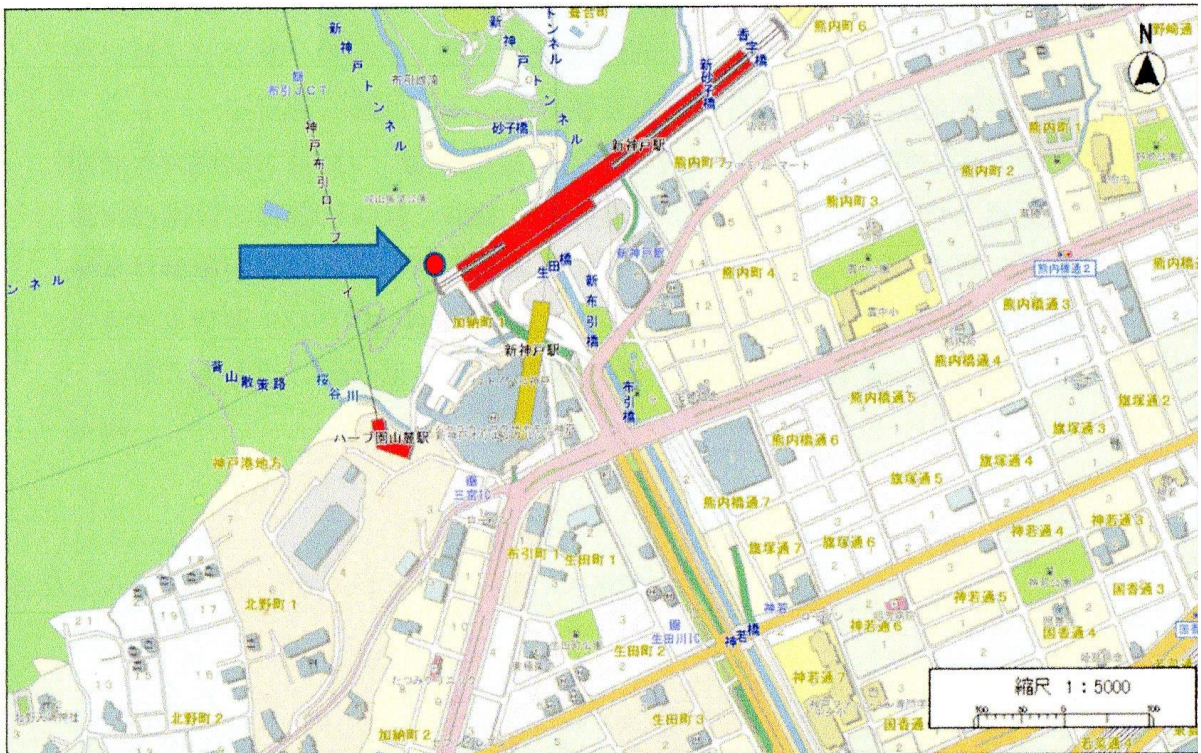
森林整備事務所所長としてご指導を仰いでいました道木柳太氏（現在、神戸市六甲山研究員でご活躍）から、昨年の秋 次のようなご依頼がありました。

六甲山整備戦略に基づき進められている、新神戸駅裏の試験区で、市街地に近接した災害防止の森として、急斜面の大径木の樹林を皆伐し、萌芽更新を促すとともに、その後の森の変化等を観測しています。同整備戦略に関する研究会(会長 服部 保)でご意見を頂き、萌芽枝の管理と低木管理の試行として、同地区で刈り込み実施後の苗木植栽を行うに当たって、郷土種の苗木育生を試行している、こうべ森の学校の苗圃のコバノミツバツツジに、白羽の矢が当たりました。

苗圃の苗床には、丁度平成29年に発芽し、15～20cm程に育成していたコバノミツバツツジが約80ポット植えてありました。令和3年の森の文化祭でも約20本市民の手で脊山の一角に植栽した兄弟の苗です。六甲山整備戦略に役立つとは願ってもないことと、快諾のお返事をしておりました。令和4年4月15日 コバノミツバツツジ 25本は新神戸駅裏の試験区〇印の地点に植栽されたとの報告を道木柳太氏より頂きました。



### 3. 位置図



※

新神戸駅(赤色)の、西側に植栽

■ 前々回・前回の、月例会報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
2月20日(日)	37名	横田さん	15名	8名	8名	4名
3月12日(土)	28名	木下さん	7名	8名	7名	4名
4月17日(日)	38名	上田さん	19名	6名	7名	3名

■ 東お多福山草原再生・保全活動

4月6日、今年度最初の活動でした。参加者42名(森学5名)

■ お知らせ掲示板

♣ こうべ森の小学校 & 森の幼稚園

♣ 摩耶の森クラブ

(活動日の問合せは、神戸市森林整備事務所に)

♣ ボランティア保険に加入していますか!?

森の手入れ作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛金は500円の負担で、補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口は、お住いの市区町社会福祉協議会です



当日、6時55分のNHK-TVで、兵庫県南部の降水確率が60%以上の場合は、活動中止です

活動の開催予定

🌲 月例会 6月19日(日)、7月9日(土)

午前中は、全員で森の手入れ、  
午後は、森の手入れ・自然観察・木工・  
苗作りから、選択を予定しています。

🌲 火・木・土曜日も、活動していますよ!!

こうべ森の学校は、発足当初から、物心両面にわたり、伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて、運営しています。

< 編集後記 >

花冷えで始まった2022年度。そのおかげで満開の桜の花が長く楽しめました。皆様もさまざまな場所で、桜を楽しまれたことと思います。再度公園はこれから花や新緑の季節を迎えます。草花に目を向けつつ、森の手入れを楽しみましょう。本年度もご安全に、よろしくお願いいたします! (首藤 祥子)

